

横浜市感染症発生動向調査報告（令和4年4月）

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は第6週の報告数21,068件をピークに減少傾向にあります。小児を含めた幅広い年齢層での感染がみられます。
- 梅毒の報告は14件で、高い水準で続いています。

◇ 全数把握の対象

＜4月期に報告された全数把握疾患＞

腸管出血性大腸菌感染症	4件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
E型肝炎	3件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
A型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件	梅毒	14件
急性脳炎	1件	百日咳	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件		

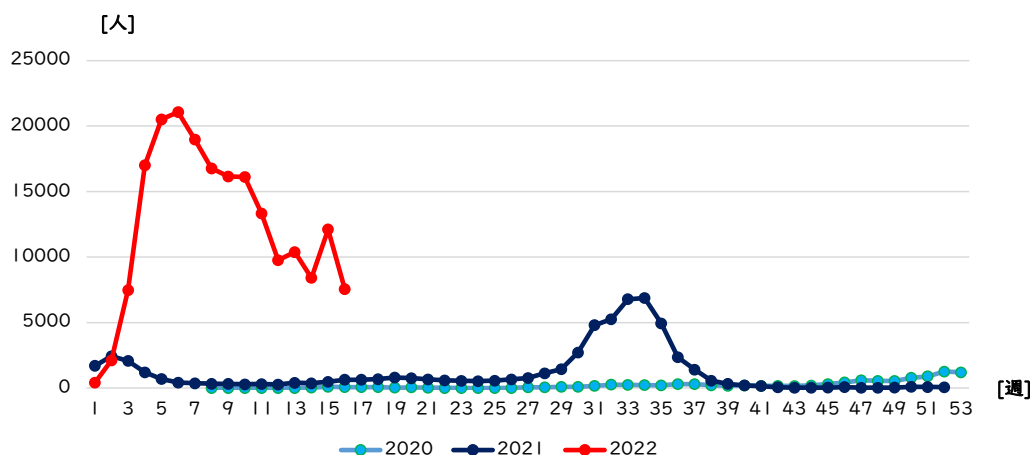
- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が2件、O26およびO不明の無症状病原体保有者の報告が1件ずつありました。1件は国内での経口感染と推定され、3件は感染経路等不明でした。
- 2 E型肝炎: 国内での経口感染と推定される報告が3件(うち1件は無症状病原体保有者)ありました。
- 3 A型肝炎: 国内での経口感染と推定される報告が1件ありました。
- 4 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 4件の報告があり、いずれも感染経路等不明でした。
- 5 急性脳症: 幼児の報告が1件ありました。病原体は不明です。
- 6 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: B群とG群の報告が1件ずつあり、いずれも感染経路等不明でした。
- 7 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDS1件、無症状病原体保有者1件の報告がありました。いずれも男性で、同性間性的接触による感染と推定されています。
- 8 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 70歳代(ワクチン接種歴不明)の報告が1件ありました。
- 9 侵襲性肺炎球菌感染症: 10歳未満1件(ワクチン4回接種)、60歳代1件(ワクチン接種歴不明)、70歳代1件(ワクチン1回接種)の報告がありました。
- 10 梅毒: 早期顕症梅毒Ⅰ期9件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件、無症状病原体保有者3件の報告がありました。性的接触による感染が13件(異性間10件、同性間2件、詳細不明1件)、感染経路等不明が1件でした。
- 11 百日咳: 40歳代(ワクチン接種歴不明)の報告が1件ありました。感染経路等不明です。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

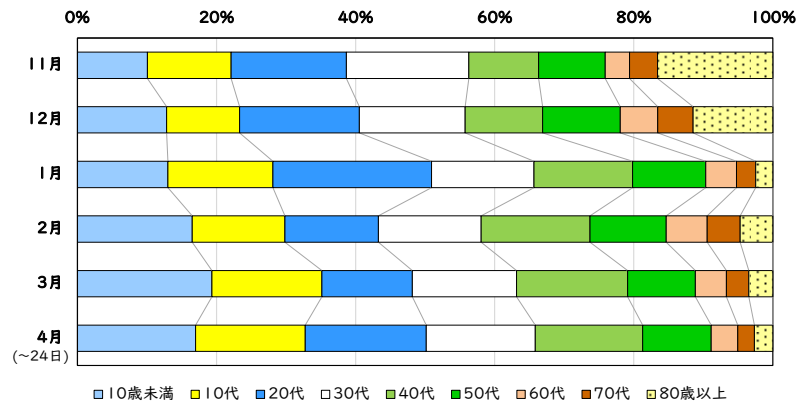
第12週～第16週に横浜市から報道発表がありました症例は48,246件でした。

◆ 横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>

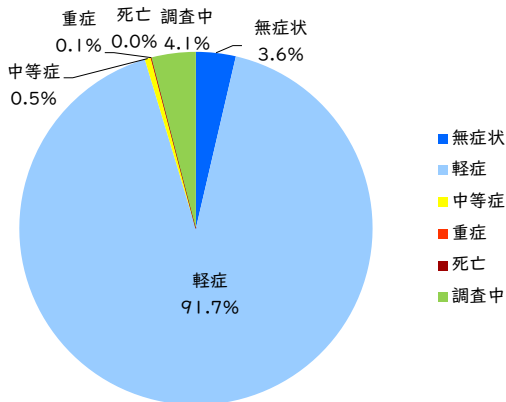
1 報告数の推移



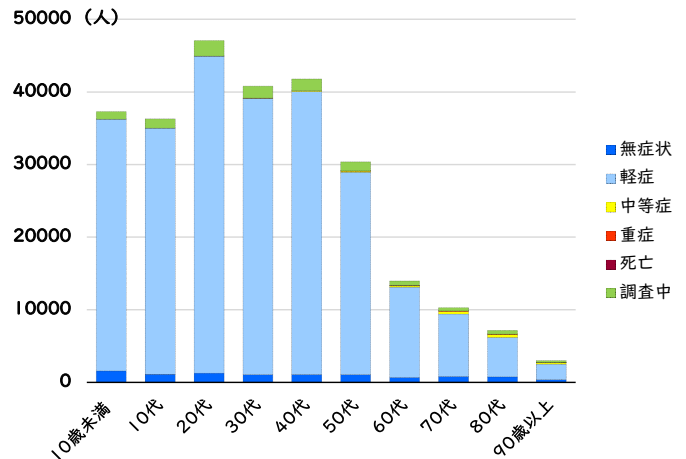
2 年齢層別患者割合



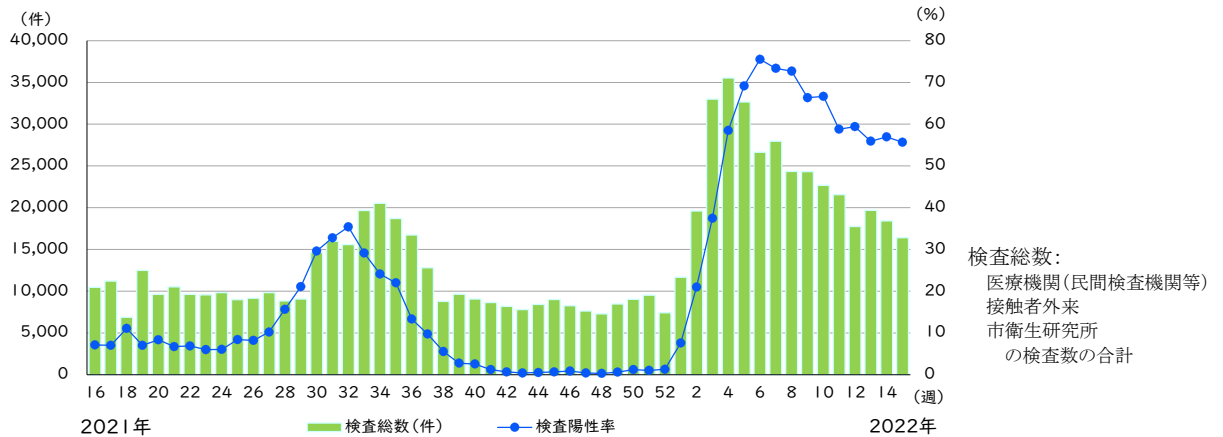
3 陽性確定時の症状の割合(2022年第16週まで)



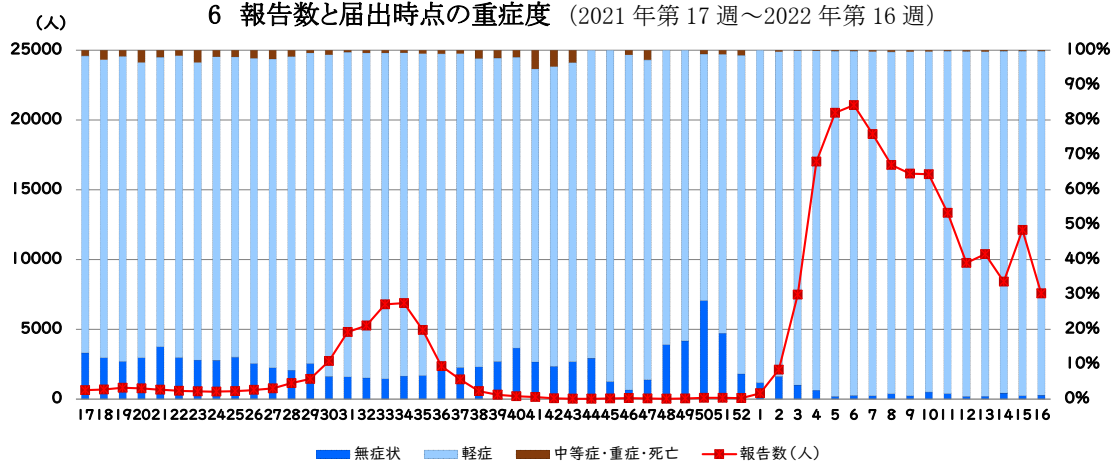
4 陽性確定時の症状別人数(年代別) (2022年第16週まで)



5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況 (2021年第16週~2022年第15週)



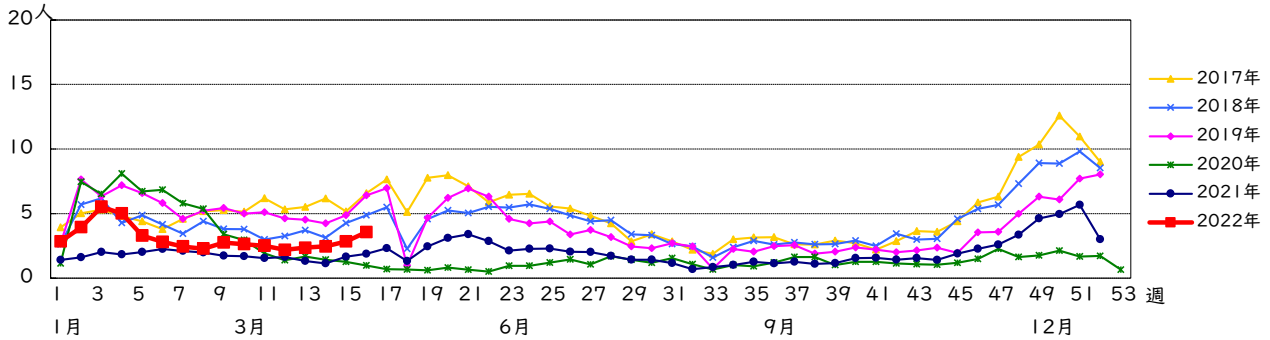
6 報告数と届出時点の重症度 (2021年第17週~2022年第16週)



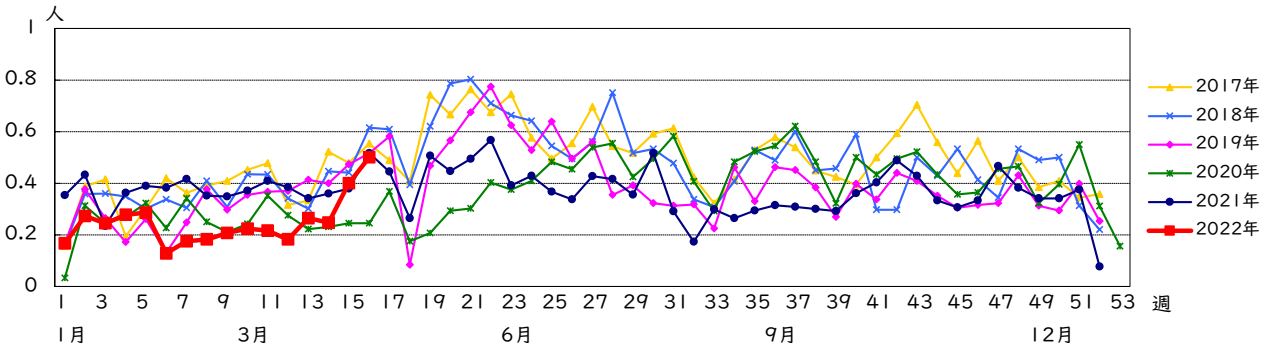
報告週対応表	
第12週	3月21日～3月27日
第13週	3月28日～4月 3日
第14週	4月 4日～4月10日
第15週	4月11日～4月17日
第16週	4月18日～4月24日

◇ 定点把握の対象

1 感染性胃腸炎：昨年より高めで推移しています。第3週の5.52をピークに、第12週で2.19と減少していましたが、第15週は2.84、第16週は3.56と増加しています。



2 突発性発しん：昨年より低めで推移していましたが、第14週は0.25、第15週は0.4、第16週は0.5と急増しています。



3 性感染症(3月)

性器クラミジア感染症	男性:30件	女性:19件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 6件	女性: 8件
尖圭コンジローマ	男性: 4件	女性: 1件	淋菌感染症	男性:16件	女性: 2件

4 基幹定点週報

	第12週	第13週	第14週	第15週	第16週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(3月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

4月期(2022年第12週～第16週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点33件、内科定点1件、眼科定点2件、基幹定点2件、定点外医療機関からは2件でした。

5月6日現在、表に示したアデノウイルス2型、アデノウイルス41型の分離株と、アデノウイルス2型、ライノウイルス、サポウイルスの遺伝子が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2022年第12週～第16週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	そ の 他
アデノウイルス 2型	1 1		
アデノウイルス 41型		1 -	
ライノウイルス	- 1		
サポウイルス			- 1
合 計	1 2	1 -	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

4月期(2022年第12週～第16週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件でした。非定点からの依頼はありませんでした。保健所からの依頼は、腸管出血性大腸菌2件、侵襲性肺炎球菌1件、侵襲性インフルエンザ菌1件、劇症型溶血性レンサ球菌1件でした。

「分離同定」の検査依頼は、ありませんでした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は、小児科定点から咽頭炎が1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査 (2022年第12週～第16週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等
医療機関	基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)
		腸管出血性大腸菌	2	OUT : H7 VT1 (1)、O26 : H11 VT1 (1)
保健所		侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 10A (1)
		侵襲性インフルエンザ菌	1	<i>Haemophilus influenzae</i> UT (1)
		劇症型溶血性レンサ球菌	1	G群溶血性レンサ球菌 (1)
小児サーベイランス		項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	咽頭炎	1	<i>Staphylococcus aureus</i> TSST-1 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】